



**Data**

監督: フレッド・グリビオス

出演: アルバン・ルノワール/オル  
ガ・キュリレンコ/ケヴィ  
ン・レイン/ヴァンサン・ペ  
レーズ/ジョジアヌ・バラ  
スコ

## ■ショートコメント■

◆本作は、1976年にフランス最後の植民地ジブチで遂行された人質救出作戦の実話にインスパイアされた映画。そして、世界最高とも謳われるフランスの対テロ特殊部隊「GIGN (フランス国家憲兵隊治安介入部隊)」のコマーシャル(?)と、美人女優オルガ・キュリレンコ扮する女教師ジェーンのヒロイン賛歌のような映画だ。

見どころは、ジェルヴァル大尉 (アルバン・ルノワール) 率いる5人の特殊制圧チームによる一斉射撃で、テロリスト5人を同時に射殺する一瞬のシーンになる。ボクシングやK-1、RIZINの試合では、たまに1ラウンド〇秒ノックアウトの場面が登場するが、そうすると、ボクシングなら15ラウンドの放映時間枠をどう持たせるかが大変。K-1やRIZINは試合開始に至るまでの盛り上げイベントの時間がバカ長いのが特徴だが、実は本作もそれ。ハイライトは文字どおりの“秒殺”だから、それを最高の納得感で観客に魅せるため、本作はどんな演出を？

◆21人の子供たちを乗せたスクールバスが、武装組織によってハイジャック。彼らテロリストの要求は①政治犯の解放と②ジブチのフランスからの独立だから、フランス政府がOKできないのは当然。あとはテロリストたちとの交渉だが、国境に向けて走ったバスは追跡された中で今はストップしているから、テロリストたちを全員狙撃できれば問題は解決だ。

しかして、フランス政府が一方でテロリストと交渉しつつ、他方で特殊部隊の準備を整えたのは当然だが・・・。

◆本作では、特殊部隊の準備状況は刻々とスクリーン上に映し出されるが、交渉のスト

ーリーは全く描かれない。そればかりか、“上”から現地へは「テロリストが1人になるまで待て」という命令が下されるだけだから、特殊部隊のメンバーはもちろん、私たち観客もさっぱりワケがわからないまま、無為に時間をつぶすことになる。観客はまあ仕方ないが、これでは子供たちも特殊部隊の隊員たちも大変だ。映画では、そこらあたりの外交(交渉)の物語もうまく描かなくっちゃ・・・。

◆オルガ・キュリレンコ扮する美人教師ジェーンが、いくら子供たちが大切だとはいえ、肌も露わなワンピース姿で堂々と一人バスに乗り込んでいくストーリーには違和感がある。本当にそんなことができるの？また、ここまで堂々とテロリストたちと渡り合えるの？さらに、「プライバシーは尊重して」と言うものの、堂々とおしっこができるの？

そんな疑問は、ハイライトシーンに至ってこの女教師がピストルを撃つ姿を見ると更に大きくなってしまふ。いくら何でも、ここまでやればウソっぽくなってしまふのでは・・・。

◆一斉狙撃でバスの中のテロリスト達を一気に射殺。スクリーン上では1度それが可能になるが、本作ではそこから命令待ちのため待機する展開になってしまう。しかし、前述したワケのわからない命令によって、隊員や子供達の「限界」が近づいてくると、隊長は遂に独断専行を命じたが、これも如何なもの！「満州事変」は誰がどのように立案した謀略であったかは今ではハッキリしているが、とにかく軍隊では命令が絶対。現地軍の独断専行は厳禁のはずだ。

本作のクライマックスはあなた自身の目でしっかり見てもらいたいが、それが成功か否かの判断は難しい。その点は本作でもしっかり描かれているが、他方ジェルヴェアル大尉の独断専行の責任はどう描かれているの？それを考えると、さらに本作の出来にはイマイチ感が・・・。

2019(令和元)年10月25日記